

# 課題別看護における授業効果の検討 —コメントラベルの活用を試みて—

## The Assessment of the Effectiveness of Nursing Classes for Each Assignment -Attempting to Utilize Comment Label-

澁谷 貞子, 永田 美和子, 森田 恵子

### 要 約

課題別看護の授業の中で中間報告会時にコメントラベルを活用し、授業効果の検討を行った。結果、学生自ら積極的に授業に参画する姿勢が形成された。中間報告会は、学生の自主的な企画・運営、積極的な意見交換の場となりコメントラベルでの新たなラベルケーションが生まれ、個々の学びとグループの学びを共有でき、お互いの学びを尊重しあう結果となった。また、質問ラベルへの返答は誠実性・思いやり・責任感の態度形成に効果的であった。学びの自覚化にも効果的であり、更なる参画学習への発展の場となることが考えられた。

キーワード：ラベルワーク、課題別看護、コメントラベル、授業効果、中間報告会

### はじめに

看護学生は他者の健康に対して主体的に対象とかわりながら責任を果たすことが求められる。しかし、現代の若者気質として、他者に依存し主体的に学習する姿勢が希薄である。

本学では、課題別看護を看護専門科目の選択科目に位置づけ、学習目標である「各看護学で学んだ知識・技術を生かして課題別看護を探究し、研究する姿勢を養う」ために文献学習・体験学習などを通して討議をする主体的学習の場を設定している。テーマは「クリティカルケア看護」「がん看護」「救急看護」「感染症看護」「家族看護」「ターミナル看護」であり、この中から1分野を選択する。

筆者らは課題別看護の授業でラベルワークを活用した結果<sup>1)</sup>、学生はラベルの記述内容がキーワードとなり、調べたい内容を明確にでき、学習の方向性を見出す効果があることを示した。また、授業開始時と終了時のラベル図解を通して、学習内容が具体的に変化していることを明らかにし、その効果を学生自身が実感し、学びが明確になることを示した。

また、ラベル新聞を活用した授業効果の検討<sup>2)</sup>では、感想ラベル新聞の活用によって、学生がグルー

プの学びを共有し学習課題を明確にできることを示した。そして教員は、ラベル新聞での報告を受けることで、討議内容や参加状況の把握ができ、指導の方向性が明確になったという結果を報告した。

本研究では課題別看護の授業で、中間報告会時にラベル交流技法であるコメントラベルを活用し、その効果と授業効果を検討することを目的とした。

### 研究目的

課題別看護の授業で中間報告会時にコメントラベルを活用し、授業効果を検討する。

### 研究方法

1. 対象：K短期大学2年生で「ターミナル看護」「がん看護」を選択した各3グループ（1G6～7名）の計6グループで、43名。
2. 期間：平成17年10月～平成18年3月
3. 授業方法及びラベルワークの方法：  
林<sup>3)</sup>のラベルワーク技法を用いた。「がん看護」「ターミナル看護」のイメージは、授業の最初と最後にラベル図解をした。

1) 毎回討議後に「今日の学び」のラベルを作成し、持ち回りでラベル新聞を作成、コピーを全員に配布

し紹介した。

2) 中間報告会は「ターミナル看護」「がん看護」のグループで別々に実施。15回の授業の中間である7回目に実施した。「ターミナル看護」では、各グループの発表終了時にコメントラベルを記載し、コメント新聞を作成した。「がん看護」も同様に各グループの発表終了後にコメントラベルを記載し、発表した。また、質問ラベルを元に質問タイムを設けた。ラベルは各1枚。

3) ターミナル看護グループは、県内の緩和病棟を見学し、事前学習と事後レポートを提出した。

#### 4. 分析方法

中間報告会時のコメントラベルの記述内容から、意味内容の同質性、異質性に従い、カテゴリ化した。また、コメントラベルに対するラベル新聞発行者のまとめ、中間発表会後のラベル新聞の感想ラベルの内容を分析した。

中間報告会をVTRで撮影し、発表時、意見交換時、質疑応答時の態度を分析した。

データの信頼性確保のために、分析は共同研究者とともにやり、検討を重ねた。

### 倫理的配慮

学生に、本研究の主旨を口頭で説明し、研究協力・非協力は評価には関係ないこと、秘密保持を説明し、同意を得た。

### 結果

中間報告会時のコメントラベル総数は表1のように57枚であり、【効果的な発表方法に関する学び】(以下カテゴリ【A】) 23枚(40.4%)、【学習の内容の深まり】21枚(36.8%)、【今後の課題についての指摘】8枚(14.0%)、【学習態度形成についての効果】5枚(8.8%)に分類された。

【効果的な発表の方法に関する学び】では、「ガンの原因・予防が表になってとても見やすく良かったと思います。」「ガンの原因表で、言葉ではなく○×△と見やすくよかったです。」などの記述から、<効果的な発表資料(表など)について>(以下サブカテゴリ<A>)が抽出された。「パソコンを使用して絵なども入っていて見ているほうとしては、とても見やすかったです。」「パワーポイントを使っていて、わかりやすかったし、見やすかったです。」等の記述から、<効果的な視聴覚教材の使い方>が抽出された。「発表の内容がまとまっていて聞

きやすかったです。」「各項目ごとに分かりやすくまとめられていたと思います。」等の記述からはくまとめ方の工夫>、「例を挙げて説明をしていたので分かりやすかった。今後の課題も明確であった。」「自分たちが調べて、疑問に思ったことやこれから調べたいことが良くまとまっていたと思います。」等からは、<具体例の提示・疑問点を追及した発表>が抽出された。学生にとっては、表やパソコン等の視聴覚教材の使用、具体例を挙げ他者にわかるようなプレゼンテーションの実施が授業効果として高いことがわかった。

【学習の内容の深まり】からは、「食事療法が一番がんの予防になるということがわかりました。」「各がんの予防表が詳しく書かれていてわかりやすかったです。」等の記述から、<癌の予防法についての学習の深まり>が抽出された。「予期的悲嘆については私たちのグループは調べていなかったで、勉強になりました。」「患者の不安な気持ちが具体的に色々書いてあって良かった」等が記述され、<精神的苦痛や患者や家族に対する看護についての学習の深まり>、「私は死生観についてあまり理解していませんでしたが分かりやすく書いてあってよかったです。」の記述から、<死生観についての学習の深まり>が抽出された。「ターミナルの意味が分かった。全体像がつかめた。」等の記述から、<ターミナル看護の学習の深まり>、「チームとして緩和ケアを取り上げ、それぞれの職種の役割を具体的にあげていて、改めてチームで行うことの重要性を実感できた。」から、<医療従事者としての認識の深まり>が抽出された。学生は、がん看護やターミナル看護の各テーマに対し、重要な学習内容であるターミナル看護の概要や精神的看護、死生観、医療従事者に関する学習が深められた。

【今後の課題についての指摘】からは、「パワーポイントを使用していてとてもわかりやすかったです。でもメモするのが追いつかなかったのでパワポの資料も欲しかったです。」等の記述から、<今後の発表方法についての指摘>、「がんの予防について詳しく知ることができました。看護についてももう少し調べて欲しかったなと思いました。」「死生観という着眼点は面白いのですが、今現在のメンバーの死生観が知りたかったです。」等からは、<今後の学習内容の課題についての指摘>が抽出された。学生は、中間報告会を通し、最終発表会時発表方法や学習課題を明確にすることが認識されていた。

表1 コメントラベルから抽出された授業効果の内容

カテゴリ	サブカテゴリ	コメントラベルの記述内容(一部抜粋)	ラベル数
効果的な発表の方法に関する学び (40, 4%)	効果的な発表資料(表など)について	・ガンの原因予防が表になっていてとても見やすく良かったと思います。 ・ガンの原因表で、言葉ではなく○×△と見やすくよかったです。	9
	効果的な視聴覚教材の使い方	・パソコンを使用していて絵なども入っていて見ているほうとしては、とても見やすかったです。 ・パワーポイントを使っていて、わかりやすかったし、見やすかったです。	5
	まとめ方の工夫	・発表の内容がまとまっていて聞きやすかったです。 ・各項目ごとに分かりやすくまとめられていたと思	4
	具体例の提示・疑問点を追及した発表	・例を挙げて説明をしていたので分かりやすかった。今後の課題も明確であった。 ・自分たちが調べて、疑問に思ったことやこれから調べたいことが良くまとまっていたと思います。	5
学習の内容の深まり (36, 8%)	癌の予防法についての学習の深まり	・食事療法が一番がんの予防になるということがわかりました。 ・各ガンの予防表が詳しく書かれていてわかりやすかったです。	3
	精神的苦痛や患者や家族に対する看護についての学習の深まり	・予期的悲嘆については私たちのグループは調べていなかったなので、勉強になりました。 ・患者の不安な気持ちが具体的に色々書いてあって良かった	10
	死生観についての学習の深まり	・私は死生観についてあまり理解していませんでしたが分かりやすく書いてあってよかった。	4
	ターミナル看護の学習の深まり	・ターミナルの意味が分かった、全体像がつかめた	3
	医療従事者としての認識の深まり	・チームとして緩和ケアを取り上げ、それぞれの職種の役割を具体的にあげていて、改めてチームで行うことの重要性を実感できた	1
今後の課題についての指摘 (14, 0%)	今後の発表方法についての指摘	・パワーポイントを使用していてとてもわかりやすかったです。でもメモをするのが追いつかなかったのでパワポの資料も欲しかったです。	2
	今後の学習内容の課題についての指摘	・がんの予防について詳しく知ることができました。看護についてももう少し調べて欲しかったなと思いました。 ・死生観という着眼点は面白いのですが、今現在	6
学習態度形成についての効果 (8, 8%)	学習への興味・関心	・私も患者家族の苦痛についてとても興味があるので、次回の発表を楽しみにしています。 ・私は死生観について明確な考えを持っていませんでしたが、この意見を読み、自分の思いをまとめてみようと思いました。	4
	好意的な態度	・質問に誠実に答えてくれて、とてもよい印象を受けた。	1
合計			57

【学習態度形成についての効果】については、「私も患者家族の苦痛についてとても興味があるので、次回の発表を楽しみにしています。」「私は死生観について明確な考えを持っていませんでしたが、この意見を読み、自分の思いをまとめてみようと思いました。」等の記述から、＜学習への興味・関心＞、「質問に誠実に答えてくれて、とてもよい印象を受け

た。」から＜好意的な態度＞が抽出された。学習課題に対し、探求する姿勢や誠実性や思いやる態度の育成への効果がみられていた。

ラベル新聞発行者のまとめの記述では、コメントラベルに対するラベル新聞発行者のまとめの記述では、「今回の中間発表での反省点をもとに、最終発表で活かせるようにしたいです。また、課題もでてい

たので、自分の知識に取り入れられるようにしたいです。」「資料がとても見やすかったという意見が出たので、それぞれちゃんと調べたことをまとめられたことでうまく資料にはることができたと思う。他のグループに自分達が『死生観』について調べていくことを知ってもらえることができ良かったと思う。」などの記述がみられた。

中間報告会後のラベル新聞の特徴的な感想ラベルとして、「他のグループからの質問・コメントを見て、わかりづらい言葉の補足と適度の程度を書く必要があるとわかった。」「中間報告会での質問やコメントを読み、予防表の直しをした。次回までに治療をまとめていきたい」「この前の発表での質問をみて話し合った。最後の発表では答えられるようにしようと思う。」などの記述が見られ、学習に対する達成感や責任感が得られていた。

中間報告会をVTRで撮影し、発表時、意見交換時、質疑応答時の態度を分析した結果、質問ラベルの発表時、発表者が周囲を見渡す行動や隣の学生と相談する等の行動は観察されず、スムーズに起立し、発表する行動が観察された。また、質問ラベルに対し、グループで協力し質問に回答しようとする行動が見られた。

緩和ケア病棟見学時の行動としては、上記のように主体的に行動をし、学習している行動が見られた。それは、1回目に見学したグループが見学後すぐにレポートをし、次のグループにその内容を配布し、同じ質問をしないように工夫していたことである。

また、中間報告会後に自分たちのグループが今後何をするのかの意見がまとまっていないことに気づき、それまでグループメンバーのまとまりが悪かったが、真剣に話し合うようになり、結果自分たちの考える理想の緩和ケア病棟のモデルを作ることに決め、その後は協力しながらモデルの作成をした。

## 考 察

課題別看護はゼミナール形式で実施し、学生参画型授業をねらいとしている。筆者らはこれまでの課題別看護の授業において、学びのラベル図解やラベル新聞の発行を試み、従来は教員しか把握しえなかったグループ全体の学びの状況を、学生自身が全員で把握し、共有することで学習内容や学習課題が明確になり効果的であることがわかった。

本研究では、学生参画型授業の更なる飛躍を目指して発表時にコメントラベルを用い、授業効果の検

討を行い、次の3つの示唆を得た。

### 1. 学びを見つめあい学習内容が深まり、効果的である。

現代の若者気質として、カンファレンスや発表の時にはできるだけ自分の意見は言わないでおこう、いつでも自分に関心を持ってもらいたいが、自分が問われることは極端に嫌うという傾向が見られる。評価し、評価されるということに慣れていないことから、質問内容が間違っていたらどうしよう等と、受身で積極性に欠ける傾向にある者が多い。

しかし、VTRの分析から、コメントラベルの活用によってこれまで避けていた発表や評価に対して、記載されたコメントラベルを読み上げ、他のグループに伝えるという作業となり、積極的に発表できるようになった。仮に進行係に当てられたとしても、コメントラベルがあるので、躊躇することなく発表ができ、自信を持つことができたと考える。

また、事前に感想ラベル・質問ラベルのコメントの提示がされるので、相手の発表に対して全神経を集中して聴くことができる。特に質問ラベルは、論理に矛盾点はないか、もっとよく確認したい点はないか、解釈の違いはないか等、批判的に発表を傾聴しなければ記載することはできない。

金城<sup>4)</sup>が、ラベルを通して自分の体験や気持ちを相手に伝えあうために、メンバーの語ることに耳を傾けることになる、と報告しているように、体験を通して傾聴する力を育てることになり学びの自覚の芽生えと考えても良い。

更には、中間報告会後のラベル新聞の記述や、今後の課題についての指摘からもわかるように、コメントラベルに目を通すことで、グループ学習の内容をフィードバックすることができる。これまでの発表方法では、質問内容は口頭で行われることが殆どであり、感想や意見は詳細に記載されておらず、時間と共に記憶から薄れていくことが多かった。

しかし、コメントラベルは記録として残っており、グループ内と、他グループとでラベルを通してのコミュニケーションつまり、ラベルケーションが生まれ、新聞発行者のコメントラベルにも記載されていたように、学習内容への自信と新たな課題を見出すことができる。その結果、質問ラベルに対して、詳細に調べて答えるという新たな行動を起すという学習効果が生まれたと考える。

### 2. 誠実性・思いやり・責任感の態度形成に効果的である。

看護においては、患者に対する思いやりの気持ち

や誠実さは重要である。

質問ラベルやコメントラベルに対して調べて答えるという行動は、相手の求めている内容に対して、誠実に対応していると考えられる。質問ラベルは、前述の通り、他のグループが全神経を集中させて考えた結果の産物である。その産物へグループが協力して調べ、調べた結果をラベル新聞にして返す作業は、質問者のモヤモヤとした消化不良の学習内容に対する解決の報告を担っており、責任ある行動であると考えられる。これは、金城<sup>4)</sup>の言う看護師として成長し続ける力としてのコミットメント能力の形成に必要であると考えられる。

### 3. 学びの自覚化が加速される。

林<sup>3)</sup>によれば、学びの自覚化のステップは6段階であり、(図1)各グループは中間報告会を境に、急速に学びのステップを進めていったと考えられる。『ターミナル看護』グループの緩和ケア病棟見学の際の態度として、主体的に行動できたことは、学びのステップの第3段階を自覚し行動できたと考えられる。質問項目を吟味し、見学後の話し合いの場での意見交換では、患者さんから否定的な感情をぶつけられたことはあるか、患者に感情移入することはないのかなど、自分の意見も述べながら質問していたことからステップアップしたと考えられる。

また、Aグループの行動は、自己の学びを客観的に評価できた中間報告会から、加速度的に6段階まで進み、他者への学びの協力、援助そして指導等、学びに関与するものの自覚が芽生えてきた結果といえる。

しかし、今回の中間報告会ではがん看護グループのみが質問ラベルの交換を実施したので、今後の発表会においては、質問ラベルを徹底して活用する必要がある。

第1段階	主観的に自己の学びを評価する段階
第2段階	相対的に自己の学びを評価する段階
第3段階	客観的に自己の学びを評価する段階
第4段階	一般的に自己の学びを概念化する段階
第5段階	意図的に自己の学びを変革しようとする段階
第6段階	献身的に他者の学びに関与しようとする段階

図1 学びの自覚化の6つのステップモデル<sup>5)</sup>

## まとめ

中間報告会にコメントラベルを活用することで、

1. 自ら積極的に発表する姿勢、傾聴する姿勢が形成され、また手元に戻ってきたコメントラベルでの新たな

なラベルケーションが生まれ、学習効果が得られる。

2. 質問ラベルへの返答を通して、誠実性・思いやり・責任感が形成される。
4. 学びの自覚化の段階が加速される。

## 引用文献

- 1) 永田美和子, 澁谷貞子: 課題別看護における授業効果の検討. 日本創造学会第26回研究大会発表論文集, 112-115, 2004.
- 2) 澁谷貞子, 永田美和子: ラベル新聞を活用した課題別看護における授業効果の検討その2. 日本創造学会第27回研究大会発表論文集, 112-115, 2005.
- 3) 林義樹: 学生参画授業論. 学文社(東京), 1999.
- 4) 金城祥教: 看護教育に於ける創造的コミットメント力と参画理論の検討(その1) -看護ラベルワークの教育実践から見えてきたもの-第27回研究大会発表論文集, 108-111, 2005.
- 5) 林義樹: 参画教育と参画理論, 学文社(東京), 2002.

# **The Assessment of the Effectiveness of Nursing Classes for Each Assignment -Attempting to Utilize Comment Label-**

Teiko Shibuya, Miwako Nagata, Keiko Morita

## **Abstract**

We utilized labeling newspaper in nursing classes for each task, and assessed the effectiveness of the classes. From the assessment we obtained the following outcomes by using labeling newspaper in each class, students could share the information with other groups, identify the direction and the purpose of learning, and have a clear understanding of next objectives for the following classes, through the report in the labeling newspaper, instructors were able to understand the content of the class discussions and the status of the student participation, and determine the teaching strategies to facilitate student's learning. Further more, the session for the interim reports, that was voluntarily organized and conducted by student provided the opportunities for students to exchange ideas and opinions actively, and for teachers to observe the effectiveness of the class. We also found that the session provided the opportunities to develop the learning in which involves in planning, organizing and conducting projects.

Keywords: Label work, Labeling newspaper, Nursing class for each assignment